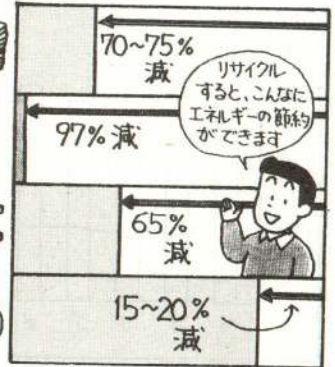


古紙1t分は、直径14cm、高さ8mの木20本からつくるパルプに相当します。

リサイクル原料でエネルギー節約



# 分別+リサイクル=資源

ごみの分別に資源ごみが増えたことで、燃やせるごみ・燃やせないごみの数量は徐々に減少してきました。総数量ではほぼ横ばいですが、相対的に資源ごみが増加しているわけです。つまり、これまでは資源として再利用できるものも捨ててしまっていたことになりました。

ごみ問題を解決するカギは再生・再利用できるものは資源ごみとして収集し、リサイクルへ回すこと。「まぜればごみ、わければ資源」です。

リサイクルが進むと、ごみの量が減り処理費用も節約できます。限りある資源の有効利用は、天然資源と自然環境を守ることにもつながります。また、リサイクル原料から製品をつくると、本来の原料をつくる時と比較して大幅にエネルギーを節約でき、それは工場でのエネルギー消費量や水の使用量を減らすことにもなりますから、工場から出る汚染物質も減らせるのです。

いいことばかりのリサイクル、やらないわけにはいきません。そしてそのためには、私たちがリサイクルに対する意識を高め、市民・事業者・市・回収業者などが力を合わせなければなりません。

せん。

現在は円高などの影響で再生资源が暴落し、リサイクルの流れを保つのが難しい状況ですが、だからこそ今、リサイクルの意義を再確認し、リサイクル社会を目指していく必要があります。私たちにできることは、リサイクルすること、リサイクル製品をつかうこと。そしてしっかりと分別して「資源ごみ」を出すことではないでしょうか。

さて、市内で資源ごみとして出されたものはどういうふう再生されるのか、かいつまんでご紹介しましょう。

## 古紙

秋田市と北海道の製紙工場へ運ばれます。

古紙はまず温水と一緒にドロドロに溶かされ、バラバラの繊維に戻されます。そしてインク抜き装置にかけられ、墨やインクが取り去られます。つまり洗濯されるのです。その後、脱水・プレス・乾燥を繰り返して製品になります。

紙にはたくさん種類がありますから、品質を一定に保って再生させるには、新聞・雑誌など、

焼却

余熱利用

プール  
湯室  
園芸  
給湯  
温暖な

埋め立て

資源(原料)売却

